

第1回 教育課程編成委員会 議事録

〔日 時〕 平成27年11月10日（火）16：25～16：45
〔場 所〕 厚木看護専門学校
〔出席者〕 厚木医師会長、厚木病院協会副会長、実習施設看護部代表（秦野赤十字病院看護部長）、厚木市市民健康部長、学識経験者（県立厚木東高等学校長）、リハビリテーション事業団理事長、同事業団常務理事、学校長、副学校長、看護第一学科長、看護第二学科長、教員3名

<委員長>

教育課程編成委員会の開催いたします
育成人材に視点をおいたカリキュラムについての意見についてどうでしょうか。

<委員A>

教育課程看護第一学科 3頁の1基礎分野で「文書表現法」について今の若者はスマホなどで育ってきているので文書は意外と出来るのですが、ことばで表現することが弱くなってきていると思われる。そのことをこのカリキュラムに入れるのかというのですが、ただ、今回これを読んだ時に文書表現法ではなく言葉で表現することが入ると良いのかと思います。

<委員B>

今、言っていたコミュニケーション能力につきましては、今の若者の課題ということで私たちもカリキュラムを組むときに厚労省から指導をもらっているところがあります。こちらには表現はしておりませんが、専門分野Ⅰの基礎看護学Ⅱの30時間のうち10時間くらいにコミュニケーションを入れているところがあります。また、在宅のところでは、初回訪問ということイメージしまして、ビデオに撮って利用者さんと自分たちの係りがどうなのかを、実施者、観察者として勉強しています。ただ、ご指摘していただいたようにここの表現の中で言葉によるコミュニケーションというところが無いこととコミュニケーションを評価をしていかなければならないと思います。あと、授業の中でグループワークを行い自分の言いたいことがきちんと表現できるようにするなど、各領域で工夫をしています。

今回の当校の特色としまして、リハビリテーションのところで、バイオメカニクス、リハビリテーション学、リハビリテーション看護、領域別のところで意識をしてリハビリテーションについては教授をしております。数年前に各看護学の実習でリハビリテーションについて学んでいるか調査をいたしました。結果、思ったよりも各領域でリハビリテーションということを意識しておりまして、例えば体を動かすことだけではなく励ますことやその人の日常生活を見ていくことも一つはリハビリテーションの大きなところに入るということを小児科や母性のところでも学生が言っていましたので、そういうところでは当校の学科のねらいが出来ていると評価いたしました。

<委員C>

各授業科目の学習目標について、後半の方の目標を見ると到達目標的な「～出来る」と書かれているのですが前半は「～身につける」など能動的な実際の中でやっていますよというようなことが書かれているような感じなので、出来れば学習目標なので能動的どこまで何が出来るようになるという形にした方が学生も取り組むうえでよいのではないのでしょうか。

先ほど委員Aさんから言葉で表して伝えるのは難しいとありましたが、私もこれは誰

に向けて書いているのかというところがありまして、学校として同じカリキュラムを組む教員にもわかるようにこういう理念ですよというのはとてもよい文書と思うのですが、学生向けにあなたたちはこの科目を取るとどうゆうことが出来るようになりますよとゆうメッセージが伝わるような教育課程だとなお良いと思います。もし、理念的に難しいという事であれば、せめて後半の方の「～出来るようになる」とされた方が良いのかと思います。

今後のことでいいますと、時系列で例えば前期の段階ではここまで出来る、中間テストでは何が出来て、年間ではどうゆうことが出来るなど学習の到達度、だから自分がどうゆう授業を受けなければならないなど、自分の目標が具体的にわかってくるととても良いのではないのでしょうか。これは、教員が見るととても見やすいと思うのですが学生が見てもわかりやすいもの、私の学校でも教員が授業改善でサービス業的に学生にいろいろ仕掛けています。それは非常に良いことなのですが、私は学ぶ側にも責任を持たせたいと思いつけているところもあるので、そういう意味も含めて受けるあなたたちは何をしなければならないということが明確になると良いと思います。

<委員B>

教えていただきたいのですが、14頁の「各学年のねらいと到達目標」の内容を基に考えて行くということによろしいでしょうか。

<委員A>

はい、そうです。これは理念ですので、ここを基に変えていくと良いと思います。例えば、1年次の1に看護に対する関心を高めるとありますが、このためにはどの科目をどのようにやればよいのかをリンクしていくと良いのでは無いのでしょうか。個々で具体化して確かに高まりましたということを実感していただければよいと思います。

<委員長>

他に何かありませんか。

無ければこれで閉会といたします

本日は多数のご意見をありがとうございました。

厚木看護専門学校は、県央地区の病院等への看護師供給事業として重要な位置づけとなっておりますので、今後、新たな取組み等がありましたら、遂次情報をいただければと考えます。

以上